

令和 7 年度 住之江区区政会議

第 1 回 すこやか・まちづくり部会 会議録

1 開催日時 令和 7 年 5 月 2 3 日（金） 1 9 時 0 0 分から 2 0 時 0 0 分まで

2 開催場所 住之江区役所 3 階 第 3 - 1、3 - 2 会議室

3 出席者

〔区政会議委員〕

長谷 克己 委員、大西 徹 委員、田貝 泉 委員、竹内 周次 委員

谷本 さやか 委員、茶谷 尚世 委員

（出席 6 人／定数 8 人）

〔住之江区役所〕

玉置 信行 副区長

井平 伸二 協働まちづくり課長

来馬 恵 I C T ・企画担当課長

松本 勝也 保健福祉課長

岩本 穰 生活支援課長

福田 佳代子 保健担当課長

川井 圭史 協働まちづくり課長代理

岸田 詠美子 I C T ・企画担当課長代理

大家 典子 保健福祉課長代理

片山 佳子 保健副主幹

鞍馬 由実 生活支援課長代理

本田 弘美 保健副主幹

4 発言内容

○井平課長

皆さん、こんばんは。それでは、令和7年度住之江区区政会議、第1回すこやか・まちづくり部会（旧の愛しむ部会）を、開催させていただきます。

事務局の住之江区協働まちづくり課長の井平です。どうぞよろしくお願いいたします。

はじめに、本部会の名称でございますが、本年度策定しました住之江区の将来ビジョンに準じて、「すこやか・まちづくり部会」と変更しますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、本日出席いただいている委員の方を紹介させていただきます。お手元の名簿にてご確認ください。

会場にお越しいただいている委員の皆様は、長谷部会長、大西委員、田貝委員、竹内委員、谷本委員、茶谷委員でございます。

なお、中川委員と吉川委員は所用により欠席されております。

本会議は、午後7時00分現在、全委員8名中6名の委員のご出席をいただいておりますので、定足数である委員定数の2分の1以上を満たしておりますことを、ご報告いたします。

住之江区役所の出席者につきまして、4月の人事異動で玉置副区长が着任いたしましたので、ご紹介いたします。

○玉置副区长

皆様、こんばんは。4月に西区役所から参りました玉置と申します。まだ1か月半ではありますけれども、地域活動、あるいはいろんなところで、区民の皆様には本当に支えられているなど実感しております。今日の会議でもいろんなご意見をお聞き

できるんじゃないかなと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○井平課長

その他の住之江区役所の出席者につきましては、配席表にてご確認ください。発言する際には、役職と名前を伝えさせていただきます。

この会議には個人情報などの非公開情報はございませんので、公開とさせていただきます。また、本日の傍聴者はおられません。

なお、大阪市では近年の気候変動対策をはじめとする環境施策や職員の働き方改革の観点を踏まえ、軽装勤務の通年化を実施しております。気温や体調等に応じた快適な服装での会議出席となりますので、ご了承ください。

本日の議論の内容は、6月19日、木曜日に開催予定の区政会議全体会でご報告いただき、情報共有を図ってまいりたいと考えています。

議事録につきましては後日公表となり、公表する際は発言者と発言内容について公開されますので、ご承諾いただきますようお願いいたします。また、広報や記録のために写真を撮影しますので、併せてご了承くださいますようお願いいたします。

では、本日の資料の確認をお願いいたします。

まず、次第がありまして、その後に、すこやか・まちづくり部会委員名簿、片面が全体の名簿になってる分です。

その後、配席図。

資料1としまして、「令和6年度住之江区運営方針振返り（案）について」。

資料2としまして、「区政会議について（裏面が地域活動協議会について）」という資料です。

その他、竹内委員からいただきました資料を机上に配付していますので、ご参考にご覧ください。

本日の会議ですが、現在、策定に向けて進めております令和6年度の住之江区運営方針振返り（案）についてご報告し、今年度以降の各取組につなげていけるようご

意見をいただきたいと思います。

時間は20時までの1時間を予定しております。スムーズな議事進行にご協力をお願いいたします。

なるべく多くの委員さんからご意見をいただきたいと思いますので、発言につきましては1回当たり2分程度を目安でご発言いただきますようお願いいたします。2分が経過しましたら事務局よりお知らせしますので、ご意見をまとめて発言をお願いいたします。

それでは、ここから議事を開始しますので、部会長にお任せしまして進めていただきたいと思います。

長谷部会長、よろしくお願いいたします。

○長谷部会長

皆さん、こんばんは。それでは、部会の議事を進めさせていただきます。

本日は、令和6年度住之江区運営方針振返り（案）について議論いただきます。

早速ではございますが、事務局より説明をお願いいたします。

○井平課長

協働まちづくり課長井平です。よろしくお願いいたします。

本日の資料は、「令和6年度住之江区運営方針振返り（案）」となっております。

運営方針とは、住之江区が、重点的に取り組む課題を挙げて、その課題を解決することを目的とした取組を掲げたものとなっており、令和6年度も、「子どもに関すること」、「地域と福祉に関すること」、「防災防犯に関すること」の3つの経営課題を上げていました。

当部会では、そのうちの、経営課題2「すべての人が自分らしく暮らせるまちづくり」について、ご議論いただくことになります。

資料には、この課題でめざす主なSDGsゴールを掲載していますので、参考にご覧ください。

それでは具体的な説明に入らせていただきます。

資料を1枚めくっていただきますと、令和6年度住之江区運営方針振返り（案）について、概要を簡潔にまとめたものをつけさせていただきます。

これまでの取組の課題と方向性を踏まえた6年度振返りを記載し、特にご意見をいただきたい箇所については赤字で囲んでおりますので、この資料に基づき説明をさせていただきます。

それではまず、2-1、地域の活力と魅力の向上の各取組についてご説明いたします。

まず、具体的取組2-1-1、多様な主体による地域の活気と魅力づくりのための取組としまして、企業・NPO・学校・地域交流会の開催、地域資源を活用した地域活動の支援を行いました。

地域課題の解決に向けた協働取組がさらに活発になるような支援が必要であり、引き続き、令和7年度もまちづくりセンターと連携し、企業・NPO・学校・地域交流会を開催するなど、継続的な支援を行ってまいります。

なお、資料の5ページのクローズアップに記載しておりますように、令和6年度の第2回企業・NPO・学校・地域交流会を令和7年2月14日に開催しました。当日は地域活動協議会から27名、企業・NPO等から35名の参加をいただいて交流を図ることができました。

また、住之江区で活躍している方々同士が交流してつながる場として、まちセンカフェを開催し、地域活動の活性化のヒントや新たな取組をスタートする機会を提供しております。引き続き、まちづくりセンターと連携し、より効果的な活動となるよう取組を進めてまいります。

次に、具体的取組2-1-2、地域活動協議会による自律的な地域運営の促進の取組としまして、まちづくりセンターとの連携による地域活動協議会の情報発信等の取組の支援を行いました。具体的には、7ページに記載しております地域活動協議会

実務者交流会において、「地域活動で使えるチラシづくり講座」を行うとともに、区の広報紙において、毎月、各地域活動協議会の活動を紹介してまいりました。引き続き、まちづくりセンターと連携して支援を行ってまいります。

次に、具体的取組 2-1-3、地域の魅力の共有と発信の取組としまして、地域が情報を発信することができるポータルサイト「すみのえ情報局」の運営、周知、投稿支援を行いました。

情報発信件数については増加傾向にありますが、利用・投稿される団体に偏りがあることから、引き続き投稿支援を行いつつ、利用者のニーズを把握するなど、利用状況の検証を行い、ポータルサイトの在り方について検討を進めてまいります。

また、資料 10 ページのクローズアップに記載のように、区内のふれあい喫茶等でスマホの使い方などのご相談に応じる「スマホちょこっと相談会」を 14 地域で開催してまいりました。引き続き、区民のリテラシー向上に向けて取り組んでまいります。

次に、2-2、支え見守りあう地域づくりの各取組についてご説明いたします。

まず、具体的取組 2-2-1、安心を提供する福祉施策の推進の取組としまして、区民の困り事に対してよりの確な支援につなげるよう、職員の「気づき」「感度の向上」を図るため、研修を実施してまいりました。引き続き、区役所の保健福祉・生活支援の担当のみならず、全ての職員に対して研修を行うことにより、福祉・暮らしなどの支援に係る各窓口などを情報共有し、相談対応能力の向上に努めてまいります。

また、個別の支援に当たっては、関係機関の情報共有・連携のため総合的な支援の場として、つながる場や生活困窮者支援会議を積極的に活用してまいります。

最後に、具体的取組 2-2-2、地域福祉の充実の取組としまして、各地域において日頃から見守り活動の担い手となるサポーターを養成するため、見守りあったかネットサポーター養成講座を開催するとともに、各地域の課題や取組の共有を行いました。

今後も、地域のつながりを活用するなどして、必要とされるニーズを明確化し、間口を広げるによりサポーター養成講座への参加促進を図ってまいります。

報告しました取組について、より効果的な取組となるよう今年度も取り組んでまいりますので、よりよい取組となるよう、幅広い皆様のご意見をいただきたいと思います。

特に、前回の会議でも意見をいただいております「地域活動の新たな担い手やご近所でのつながりを増やすための方法」、「多様な主体と連携して地域活動を行う方法」、また「必要な情報を広く伝えるための工夫」などについてご意見をいただければと存じます。

私からの説明は以上でございます。部会長、よろしくお願いいたします。

○長谷部会長

ありがとうございます。

ただいまの事務局の説明を受けまして、各取組についての質問やよりよい取組するために必要なこと、また事務局から特にご意見をいただきたいと依頼のあった内容について、ご意見、ご提案をいただければと思います。

なお、先ほど事務局のほうから説明があったとおり、1回当たり2分、2分を経過しますと、事務局のほうからご案内いたしますので、取りまとめていただいてご発言をいただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

どの取組からでも結構ですので、よろしくお願いいたします。

竹内委員。

○竹内委員

ありがとうございます。竹内でございます。

今回ご意見をいただきたい事項ということで、大きな字で3項目いただきまして、私いつも最近はこういうテーマについてはA Iにまずは聞くことにしております、今日、別途つけていただいた資料がありますが、このA Iにこのまま質問して、回

答をもらった資料をつけていただいています。これはMicrosoftのCopilotに聞いたものです。GoogleのGeminiとかもあります、私そんな使いません。

今日ここへつけていただいているのは、MicrosoftのA Iに聞いて、回答来たやつをそのまま、ちょっとだけ体裁は少し変えましたけど。ということで、大体網羅した、どんなこと考えたらいいかとかいうことは網羅できてるのかなと思います。今日初めて見ていただいて、こんなことかというので、ふんふんというような感じだと思うんです。多分、区役所のほうはこういうことはもう既にやっておられて、さらに実際の地域でやるためにはどうやったらいいのみたいなヒントが欲しいんじゃないかなというふうには理解してるんですけども、ちょっと皆さん、さっと目通していただいたら、何かまた考えるヒントになるんじゃないかなというふうに思います。ちょっとこれはこの資料の補足だけ、先に申し上げます。

○長谷部会長

はい。これ、A I から引っ張り出した、これは竹内さんが作られたんですか。この資料は。

○竹内委員

A I から出てきた回答をそのままWordに張りつけて、区役所のほうに送らせていただいて、もしよかったら今日お配りいただいたらということで出させていたいただいたものです。ここから、私もこれ見てから考えておりますので、少し、何だったら私からちょっと2分間発言させていただいても結構ですけど。

○長谷部会長

ご説明いただけるんだったら。一応2分間ということで、よろしくお願いします。

○竹内委員

説明しましょうか。まずは、大きなところでの地域の担い手のお話ですね。近所でつながりを増やすための方法ということでもありますけども、まずは場を作りましょう、多様な参加者を巻き込む。「つながり」を可視化する。楽しさとメリットを伝

えるというような、大きな項目での回答があるんですね。A Iはこうやって、それぞれ見ていただいたら、具体的なところが少しイメージできるんだと思います。

1 番の交流イベントなんかやお茶会とか、朝市とかウォーキングとかいうような、こういうイベントをやりましょうとか。

あと、SNSとか掲示板の活用というようなこともすぐ思いつくと思います。「お試し参加」というのが1つはあるんじゃないのということだし、多様な参加者いうことは、やっぱり若者を積極的にという、この若者というのは大学とか地域にある、そういう若い人を巻き込んでいくという。

あと、企業と協力する。これ、1つのポイントだと思います。地活協になかなか企業がメンバーに入っていないんですけど、その辺企業と協力するというのは大事なところなんだろうと思います。異世代交流の場を作るということで、子どもと年寄りですね、この辺も既にやってることも多いですけども、そんなこともやりましょうと。

あと、「つながり」を可視化しましょうということで、地域マップを作ったりとか、地域の人を紹介とかいうような、成果を共有しましょうという。

あと、楽しさとメリットを伝えるということでは、「楽しそう」と思わせるようなPRですね。発信する中身のお話だと思いますが、参加者に特典を設けるとか、地域活動を「学びの場」とするというような、こういうようなヒントというか、ことがありますよというのがA Iの回答です。まずは。

あと、2 ページ目というか、裏ですかね。この裏のほうは、多様な主体と連携して地域活動を行う方法で、行政との連携であり、企業とのパートナーシップという。

あと、学校・教育機関。あと、市民団体・NPO。あと、地域住民との協力。オンライン・テクノロジーの活用といったところで、もう今まで大分頑張ってきてるところだとは思いますが、その中でも一つずつ、ちょっとずつ、一工夫、二工夫やっていかないといけないというところだと思います。

特に、私ちょっと、私の認識としては、企業さんとのパートナーシップというか

ね。今、藤井区長がものすごい頑張って企業を回ってはると思うんですけど、もうその辺からまた何か話されてくるんだと思いますけど、実際企業の方とお話、地域でも、かなり地域活動というか、地域貢献を考えてはる企業が多いです。今。住民側がなかなかそれを受け切れないというのがあるように、今思っておりますけど、その辺りはちょっと住民側がもうちょっと頑張らなあかんとか、住民側で受けれる人を育てていかなあかんというのが私の問題認識です。

もう一個のほうですね、最後、必要な情報を広く伝えるための方法ということでは、やっぱりいろんな発信チャンネルを活用する。SNSは当然ですし、あとそのときには視覚的な工夫を取り入れるということで、やっぱり見た目という話だし、ストーリーもそうだし、あとインタラクティブな仕組みということで、アンケートとか動画とかいうこととか拡散するという、拡散というのは大事なんで、そういったやり方を入れていくみたいなことで、要はこれは方法はこういうことですけど、やっぱり発信する中身が問題だと思ってて、何を発信するかいう、そこの持った人を育てないといけないんで、そういったところは一つ問題だろうというふうには思っています。ざっとそんなところです。

○長谷部会長

ありがとうございます。私もこれ今初めて見させていただいたんですけどね、今日のご意見をいただきたい事項というものの中身が全部網羅されてるんじゃないかなと思います。もうあとこれ議論する必要なさそうやから、これでしまっていていいですか。

いや、私もちょっと本当ちょっと後でじっくりまた目通させていただいて、これ正直、私どもじゃなくて、地域活動協議会、各地域の方がやはりこういうのをもっと理解していただいて、いろんな連合町会等の運営なんかにも生かしていただけたら、もっといろんなことが広がっていくんじゃないかと思います。

ありがとうございます。

それでは、今この貴重な資料をいただいたんですけども、ほかに思っておられる

ことございましたら、どうぞ。

はい、茶谷さん。

○茶谷委員

今お伝えいただいたことと若干かぶる部分もあるんですけども、ちょっと私のほうから。

最近、近所の方とお話しする機会があって、こんなことやっていて、区内で何か問題というか、何かしら課題やと思うことないですかという話を聞かせてもらったときに出てきたご意見が、若い世代が住みたいと思うまちではないんじゃないかというご意見をいただいたんですね。やっぱり増えている地域って、どんどん若い世代、ファミリー世帯がどんどん増えている地域ってあると思うんですけども、住之江区が果たしてそうになっているかって考えたときに、実際魅力的な場所というか、住みたいなど、若いファミリー、子どもたち抱えてるファミリー世帯が住みたいと思うもの、確かにないなっていうふうに思いましたんで、これは絶対区政会議のほうで報告しますねということでお伝えしました。

あと、最近のニュースからなんですけれども、給食の件、東住吉区のほうで異物が混入されてたっていうのがあったと思うんですけども、これは住之江区内では問題はないのかなというところが非常に気になったところと、なぜそんな業者さんを使わないといけなくなっているのかというところですね。そんな異物が混入して、きちんとした仕事ができないような業者さんに給食、子どもたちが安心して給食を食べられないって、本当にとんでもないことが起きてるなって思いましたんで、これが住之江区内でまず起きていないのかっていうことと、そこまでお金のことは分かりませんが、なぜそんなに質の落ちた業者さんになってしまったのか。例えばそこに予算が削られたせいで、あまりいい業者さんに頼めず、少し価格が安くなって、そういう業者さんになってしまったのかとか、そういうところの問題を、困り事があったら相談できる工夫づくりっていうところがあると思うんですけども、そういうこと

を心配されてる保護者さんたちが、じゃあ果たしてどこに聞きに行って、どうしたらいいのかっていうところも情報として発信していただきたいなっていうのもありますし、あと、最近のニュースで、外国の方が事件を起こされてるっていう問題も多々起こってると思うんですけども、正直、住之江区って外国の方多い認識が私の中ではあります。そういうところも安心して区民の方が暮らせるようなまちづくりっていうのを、果たしてじゃあどこまで考えられていて検討されているのかっていうところも、もうちょっと深掘りして考えていけたらなと思いましたので発言させていただきました。

以上です。

○長谷部会長

ありがとうございます。先ほどのね、給食の件、これはもう本当にとんでもない話で、1件や2件じゃなかったみたいで、大阪市のほうも、市長のほうもかなり憤られてて、というか、その前にそういう業者を選んできるということ、これ多分入札か何かで決めるんだらうと思うんですけどね。やっぱり安けりゃいいっていうもんじゃなくて、その間、保護者の方が弁当作っていかざるを得なくなったという、ということは共働きとか朝早くから出ないといけない両親の方なんかはやっぱり負担が大きくなってくると。そのことに関して、これ何か役所のほうからお話しになられるようなことがありますか。

副区長、ありますか。

○玉置副区長

すいません、茶谷委員おっしゃっておられた給食のことだと思います。私ども、詳細を細かくきちっと教えてもらってるわけじゃないんで、また今後の確認にはなるかとは思いますが、ああいった東住吉区でおっしゃっておられたような、あってはならないようなことがありましたら、基本的にはこちら学校なりそういったようなところには伝わってはまいりますので、そういう意味ではそこまで私どものとこ

ろにも情報が入ってきてないので、あそこまでのレベルのことはないのかなとは思っておりますけれども、ただきちっとそういったご意見も、ご不安な声もあったということなので、そこはまた私どもも確認してまいりたいなと思っております。

そうですね、うちの学校大丈夫なんかなっていうように思っておられる保護者さんが出てくるっていうのは当然のことかと思imasのでね、そういった場合、どこに行けばいいのかなということだったと思うんですけど、基本それぞれの学校でいろんな業者、あるいは直接作ったりとかいうのをしたりしてますので、やっぱりそれは直接学校のほうにお尋ねいただくのが一番なのかなと思った次第ではあります。すみません。

○井平課長

協働まちづくり課長、井平です。最初に住みたいまちではない、魅力的なものがないっていうことを言われたんですけど、確かに大きな娯楽施設はないなと思ってるんですけど。

○茶谷委員

娯楽施設というか、おしゃれなカフェとか、何かそういうものも本当になくなって気づくんですよ。若い世代が来てくれるようなものが、チェーン店ばかりが増えて、おしゃれな、ちょっと行ったら映えるっていうようなところでも人って集まると思うんですけど、もうそれすらも確かにないなと。

○井平課長

なかなか行政としては、そういうところを個別で誘致するというのは難しいところもあって、今、そういうおしゃれなカフェとかそういったことを言われたんですけど、ほかにどういったことがあれば、ほんまに住みたいと思ってもらえるのかなというようなところでの意見をまたいっぱいいただければなと思います。

あと、外国人のことにつきましては、区役所も、できるだけその防犯というところはやってるんですけども、あくまで警察の範疇にはなってしまうんですけど、外国

人の方がいろいろ文化の違いとかもあるので、その差でちょっと近隣トラブルがあったりとかそういったことがあるというのも大きなところやと思いますんで、そういったところについてはできるだけそういう溝ができないように、何とかその外国人の方と地域がつながれるようなことを考えていければと思います。企業に來られてる外国人の方でしたら、企業とつながることで地域の活動に一緒に入って、日本の生活とかに慣れていただくということもできると思いますし、そういった形でうまくことつながっていければいいかなとは思いますが、あとは事件とかについては警察とも連携しながらしっかりやっていきたいなと思ってます。また何かいろいろいい意見とか案があれば教えていただきたいなと思います。よろしくお願いします。

○長谷部会長

ありがとうございます。

それでは、ほかに。田貝さん。

○田貝委員

区役所さんかと思ってたんで、すごいな、これ分かりやすいわと思って感動したら、竹内さんだったんですね。

○竹内委員

A I です。

○田貝委員

すごいよかったです。本当に私も A I で調べたらそうやなと思って。あと、よその地域とかもありました。

私からは、今、ふれあい喫茶とかよく回らせていただいているんですけど、平日に本当に毎週やってはるところで、40人ぐらい來られてるところだったりとか、あと頭の体操だったりとか、脳トレみたいなのところもあって、そういったところに参加される、特に脳トレとかそういうのに参加される人はもうすごい意欲的で、ちょっと何か言ってることとかでも全部書いて、もう本当に70代、80代、90代の人なんや

ろうか思うぐらい、もうしゃきつとしてはるし、もう何ていうんかな、もう格好いい
なとかと思うんですけど、そういう地域もあれば、月に1回、申し訳程度に土日のど
っちかにやってはるっていうところもあったりとかもするので、何とかその地域だけ
に任せてしまおうとなかなか差がつくかなって思うので、そこを何かもうちょっと行政
として何かできたらいいのになっていう、やっぱりその担い手の育成のところがある
のかなっていうふうに思いました。本当にやってはるところはすごい活発で、もうい
きいきしてはるしっていうところです。

あとは、うちもデイサービスとかもやってるんですけど、やっぱりボランティア
さんがすごい活動してくださって、スタッフもだんだん減ってきて、お風呂にも対
応したりとか、あと個別対応が結構多かったりするんですすごい困ってたんですけど、
やっぱりそういうのにボランティアさんで来てくださって、やっぱり誰かの役に立つ
っていうことがすごい生きがい。お金をもらうんじゃなくて、誰かに必要とされてる
ことがすごい生きがいやからやらせてくれって言って、それは社協さんとかに相談に
来たりしはるんですって。こっちはもう願ってもない。そういう方に来ていただきたい
んですっていうところで、やっぱり社協さんもやってはくださってるんやけど、も
しかしたらそういう、もうちょっと何かあったらさせてほしいっていう人と来てほし
いというところ、ちょっとマッチングというところがもうちょっとうまくスムーズに
できたらいいなというのを思ってます。

以上です。

○長谷部会長

ありがとうございます。今のね、ボランティアというのってね、住之江区各地域
でどう、協議会のほうもやられてると思うんですけどね。私とか安立なんですけど、
かなりね、輪が広がってるみたいなんです。昨日も子ども食堂、親子・高齢者・子ど
も食堂って、子どもが非常に多いんですよ。それと高齢者の方。先月のときは、私
もずっと手伝ってるんですけど、やっぱり体調を崩される、来て体調崩される方とか、

そういうような方もおられたり、そのときにどう対応するかとか、いろいろいて、そのときは一応看護師さんみたいな人がおられたんで、その方がいろいろ対応してくれて、結局ご飯食べて帰られたと。昨日も来られてて、この間迷惑かけてごめんねみたいなん言うてたんですけどね。そういうことなんですけど、ただその子ども食堂とかそういう目玉になるようなやつは結構知れ渡っていくんです。口コミとかそういうので。ところが今言うように、体操とかそういうのってね、本当にもう何かずっと私も見てるんですけど、一部の人の間で、主催するうちのまちの方なんかは、一生懸命広げようとしてるんですけどなかなか広がらない。それでもやっぱり四、五十人ぐらい、僅か1時間半か2時間ぐらいの間にいろんな体操、整体師の先生来てもらって、腰が痛いとか言う人にはこうしたらええよとかいろんなことを教えていただいて、非常に役に立ってると思うんです。これはもうだんだんとね、やっぱり結局地域の中だとね、紙ベースとか、パソコンでSNSとかっていうんじゃなくて、結局口コミみたいなんで広がっていく。だから地道にやっぱり広げていかんと仕方がないかなと。

それと、要はその町会関係の役員さんとかがやっぱりもうちょっと興味を持っていただいて、やっぱりその狭い範囲の中で広げてくれることを皆さんがやってると、もっといろんな伝わり方がしていくんじゃないかなと思うんですけどね。だからこれはね、正直、まちづくり課の役人の人に何とかせい言うても、多分無理な話だと思うんですよね。ただいろいろなことで手助けはしていただけると思うんですけど、それのところをうまくね、地域と役所と連携取っていけるような、そういう雰囲気が大事だろうと思うんで、その辺も役所の方もいろいろとまちづくりの人、本当によろいろ動いてくれてるんですけどね。なかなかその隅々まで行き届かないっていうのがあって、私ら、もうずっと見てる中でしたらね、やっぱり皆さんさぼらんとようやっておられますよ。だからその辺のところ、我々もうまいこと利用していく方法をやったり我々も考えていかんとあかんかなと思う。私は。ごめんなさい、議長がこんなこと言うたらあかんのかな。すいません。

○井平課長

地域のふれあい喫茶とかの活動につきまして、なかなかちょっと区役所なり行政が今主体的にやっていくというのは難しい状況なんですけども、区としてはその地域に対する、活動に対する補助金と、あと支援としてはまちづくりセンターがいろんな活動の困り事に対して支援するってことをやってますので、そのふれあい喫茶で何か困り事があれば、すぐにまちづくりセンターが支援しながら、人が足らんとか、どこか企業連れてきてほしいとか、そういったところをつないでいけるような形にできるように、これからどんどんしていけたらなと思ってますので、またその辺り一緒に連携して協力していただければありがたいかなと思ってます。

あと、ボランティアの件なんですけど、ボランティアセンターというのが社会福祉協議会のほうに今ある形になってるんです。なかなかちょっと活発にできてないというのが現状やと思います。社会福祉協議会とも連携して、そういった形で登録の方を増やしたりとか、地域のそのニーズを聞き取ったりとかしてマッチングをスムーズにして、活発に機能するような形にできるように話をしていきたいと思っていますので、引き続きよろしく願いいたします。ありがとうございます。

○長谷部会長

ありがとうございます。

谷本さん、ごめんなさい。

○谷本委員

すいません、先ほどの子育てするにはちょっとっていうふうなご意見があったと思うんですけど、それ多分学力が低いからやと思います。小学校と中学校って、選択制になったじゃないですか。そのときに中学校なんですけど、テストの点数が載ってるんですね。それで大阪市の平均だったかな。大阪市か大阪府かの何かの平均からどれぐらいの点数なのかというのが全部の中学校出てるんで、それでいつも住吉一中が人気が出るのは、その住吉一中が全部の中学校の中でいつも大体点数が高いんですね。

だからみんなそこに行かせたがる。だから住吉一中はいつも抽選になるみたいな状況があって、今はちょっと分からないですけど、その点数で低いところはやっぱり選ばれない傾向があったりとかします。住之江区もやっぱりその全体が、中学校全体が大阪市よりも大分平均より低かったりするんで、そういうのを見ちゃうとやっぱりここで子育てはしたくないっていうような感じになるのかなっていうふうに思います。住之江区はどうしても母子家庭とか生活保護の方にすごく優しい地域なので、そういうファミリー層にはちょっと受けないのかなっていう、ちょっとごめんなさい、私見ですけど、ものすごくいいところではあると思うんですね。私の周りもすごいシングルマザーも多いですし、住之江区のおかげでここ家借りられたっていうふうに、西区では借りられなかったって、私の友達言ってたんで。西区はやっぱり学力も高いし、タワマンもいっぱいあって、今子どもさんの教室が足りないとか。吹田市とかもそうですよね。やっぱり学力が高いところは子どもさんがどんどん増えていって、教室が足りないみたいな状況になってるのに、住之江区はどっちかというとお年寄りがどんどん増えていって子どもさんが減っていると。でもやっぱりそれは根本に育てにくさっていうのがあるのかなっていうふうに感じます。

おっしゃってたみたいに、魅力的なものだったりとかそういうのも、アートのまちとしてちょっと売り出してる場所ありますけど、週末にすごい若い人が北加賀屋の駅周辺にいっぱい何か見るんですけど、観光するにはいいんですよ。遊びに来るにはいいけど、住みたいとまではならないっていうのはやっぱりそういうところかなっていうのを思いますね。子育てするんだったらちょっとそういうのを考えたほうがいいんじゃないかなというふうに思います。

○長谷部会長

ありがとうございます。今のご意見に対して、何かあります。

○井平課長

ご意見ありがとうございます。なかなか難しいところで、その子育て世代の方に

力を入れるのか、お年寄りなのか、なかなか難しいところもありますが、全体的にや
っていかなあかんとは思ってます。ただ地域性として、やっぱり住之江区のもともと
の地域があるので、大阪市内でも周辺区っていうのは割と人数が少なくて、中心ばっ
かりに集まってるっていう全体の傾向はある中でも、住之江区はどうやって、全体的
に人口減少してそこを抑えながら、地域地域でにぎわいを作って、住みやすいまちに
していかなあかんっていうのは思ってますので、またいろいろご意見いただきなが
ら、できることをやっていきたいと思ってますのでよろしくお願いいたします。

○長谷部会長

はい、どうぞ。

○谷本委員

先ほど外国人の方が多いというのも、やっぱり物流とか大きいのが、南港とか住
之江区はやっぱり多いんで、外国の方はすごい多いんですけど、さっきちょっとあつ
た生活保護とかも外国の方すごい、大阪はすごい簡単に通るからって、ニュースでも
やってたんですけど、すごい中国人が大阪にいっぱい入ってきてるのは、生活保護が
すぐ通るからっていうふうにニュースでは言ってたんですね。私は実際は知らないん
ですけど。私の友達のご近所に中国人の方が住んでて、そこのお子さんが同じ、うち
の子と同じ学校に通ってるんですけど、おじいちゃんとおばあちゃんと一緒に住んで
るって言ってたんですけどね、実際にそのおうちに住んでるのは若い夫婦っていうの
が分かったんですよ。そういうのとかどういうふうに実質調査みたいな、本当に登録
してる人が住んでるのかみたいなんとか、そういうのもちゃんとやらないと結構なこ
とになってるんじゃないかなというふうに思います。

○長谷部会長

民生委員担当の方おられる。

○岩本課長

すいません、外国籍の方の生活保護なのですけれども、これは国の通知で認めら

れております。ただ生活保護の受給に当たっては、最低生活費というものがありまして、それで今の収入の状況等を考慮して、客観的に定めていくものでありますので、大阪市が特に通りやすいということはないと考えております。

私からは以上になります。

○長谷部会長

ありがとうございます。私も民生委員、21年ほどやってたんですけど。ここの住之江区の。それでね、だから辞めて24年ぐらいになるんですけど。3年前に辞めてるから。最初の頃、24年か25年ぐらい前はね、非常にいろんな面でね、貸付の件にしても、もう緩かったんですよ。その後いろいろと物議醸す中で、やはりそういう生活保護を受給するための申請っていうことに対しての審査の仕方とかもかなり厳しくなってきたて、私らが現役でやってた頃にかなり改良されてて、いろんな受給されてる方に対する調査とかも、警察OBの方がここに入られて、その調査して、いろんな追跡調査等で、もうあんた駄目みたいなところのこともいつときあって、今おっしゃったようにね、かなり審査的にもしっかりとやられてて、本当に今、その必要な人が必要な保護を受けられるような審査方法を今、生活保護に関しては的確にやられておると思います。だからその辺もこれからもしっかりとね、やっぱり役所のほうも対応していただければと思います。ありがとうございます。

大西さん。

○大西委員

すいません、新たな担い手というところですけど、最近の若い人って、僕ら以上に実は地元のことを思ってるというかね、地域貢献って結構興味があるみたいなんですよ。学生さんとかに聞いてもね、やっぱりボランティアとかって結構行かれるんですよ。そういうところをね、実はちゃんと学校と役所とプログラムできててね、学生さんを受け入れるのにどんなボランティアをやってもらうとか、地域活動やってもらうみたいところは多分今確立してないと思うんです。その辺りを学校側と役所で組

んでもらってね、じゃあ1年間でどれぐらいの学生さんをどんな活動してもらいたいかにね、そんなところをね、やっぱり計画立ててやってもらわないと、やっぱりそういうのは学校の中でね、順繰り順繰りやってもらうとやっぱり、住之江でこんな活動したからやっぱり住之江に残りたいなみたいなことになるのでね、その辺りをね、やっぱりその教育と役所とね、そういうことで一体化になってちょっと考えてもらったらいいのかなと。

連携ってところですけど、僕、企業にいてるんでね、企業はね、地域貢献ってめちゃくちゃやりたいんです。実は。それが企業価値を高めるということになってるんですけど、そう言われても企業側とすると、やっぱりやったからには何か企業のイメージをアップするものにつなげてもらわないと困るので、それを役所のほうでも考えていただきたいです。だからよく役所の方はね、企業にやってもらったらいいということなんですけど、やってもらってくださいみたいなことになるんですけど、企業側とすると、単にやるだけじゃなくて、それで企業価値が上がるというものをね、ちょっと役所側で少し何かこんなものだったらお互い役所と企業がウィンウィンになるみたいなね、そんなものを一度考えていただけたらいいのかなと思います。

最後に、必要な情報ってちょっと事前にどんな情報を広げたらいいのかなと思って、ちょっとお聞きしたこともあるんですけど、情報はね、今も役所のほうでいろんなメニューがあって、いろんなことを準備されてるんですけど、地域の方が届いてないというのは、やっぱりその役所側が伝えたいものと伝わる人がどんなものを見てるかというのが一致してないんだと思います。ですので、役所側が伝えるべきものがどんなものがあるって、一般の人が、例えばさざんかを見てるのか、SNSを見てるのかって、どんなものを見てるのかって、多分現状把握をされてないと思うんです。それをしないとやっぱりどんなふうに伝わるかというのがね、多分分からないと思うので、一度ね、そういうふうな例えば住民アンケートとか、どんなふうに伝わって、どんなふうにないかみたいなものをね、一度調査いただけたらいいのかなと思います。

以上です。

○長谷部会長

ありがとうございます。今のご意見に対しては、何かありますか。

○井平課長

担い手のところで、学校との話なんですけど、田貝さんからもいろいろ学校との連携、ボランティアに関しては以前からも意見いただいてるんですけど、住之江も森ノ宮医療大学とか相愛大学がございまして、そことはいろんなイベントとか、様々なところで連携して学生さんにいっぱい来てもらったりとかしてます。あと、高校のほうもですね、水都国際高校などがございまして、そこも地域のほうとも連携していただいたりしてるんで、そういったところを今言っていたような形で、きっちり形にしていくっていうのは大事なかなっていうふうには思いますので、そういったところをまたいろいろ考えていきたいと思います。

あと、企業のほうなんですけど、特に今、区長が企業連携に力を入れておりまして、区長もですね、結局役所が願ひするだけでは持続性がないということで、お互いにメリットがあって、そういった取組にしていかなあかんということを言われてますし、そういったことで進めておりますので、区役所としてはそういった形でできるだけ多くの企業と連携しながらいろんなことが進めていければと思ってますので、また引き続きよろしくお願いいたします。

あと、情報に関しては、おっしゃることはもうその通りやと思いますので、なかなか分析するのは難しいところはあるんですけども、そういったところも引き続き考えていきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

○長谷部会長

田貝さん。

○田貝委員

すいません、今の地域の担い手というか、ボランティアというところにも関係し

てくるかと思うんですけど、副区長さんとかにも来ていただいたんで、桜まつりですね、加賀屋東でやってるんですけど、そこには医師、看護師、理学療法士、歯医者、栄養士、ケアマネ、介護士とかって来て、そこでそれぞれの得意なところを地域の方に見ていただいたりとか、お話の相談したりとかするんですけど、もちろん地域の方も喜んでもらうんですけど、やらせていただくほうも何かね、すごい満足感というか、いつでも呼んでくださいって、薬剤師さんもですね、言ってもらって、いいな思ってるんで、もしそういったことがよその地域でもできるようであればすごくいいなと思うんですよね。やっぱり企業だけじゃなくて、医療のほうとか介護のほうもやっぱり自分たちの持つてるスキルを何か一般の方に生かすことができたらいいなと思ってるので、そこら辺もまた区役所のほうからもね、そんなことできるよってお伝えいただけたらいいなと思うのと、もう一個すいません。

企業とのパートナーシップっていうか、学校とのつながりもなんですけど、NPOですね、いつもやってくださってるやつで、それでうちも学校の先生とつながって、うちにじゃあ体験来ていいですよということで、病院に見学に小学校とか来るようになったんですね。そこから、もちろんその子らは将来のことをどういう職業に就こうかということもあるし、ボランティアの気持ちもあるし、すごいつながりができたんですね。なので今、年に2回ぐらいじゃなくて、本当に定期的にもっと多くの方の参加とかって、出会いの場というか、あったらもっと活性化するのかなって、やるほうは大変かもしれないですけど、思うので、そこら辺もまた考えていただけたら。今までにすごい成果物があるのかなと思います。

以上です。

○井平課長

ちょっとだけ簡単に。加賀屋東の桜まつり、僕も行かせてもらって、ほんまにすごい活発で、いい取組やなと思ってます。

まちづくりセンターも関わっていくので、そういったところでほかの地域でも行

かせてもらえるっていう情報は、そこで共有しながら広げていければと思いますので
お願いいたします。

あと、企業・NPO交流会につきましては、なかなか回数増やすのはちょっと難しいかもしれないですけど、今まちセンカフェっていう、ちょっと小さい規模で、企業さんと地域がつながるようなことも始めてますので、そういったところが活発に展開していけるようになればいいのかなと思ってますので、引き続き連携のほうよろしく
お願いいたします。

○竹内委員

すいません、住之江区が魅力的じゃないというようなお話がありましたけど、各地域やっぱ魅力的なところはあるんで、その辺以前は、僕、前も言いましたけど、地域カルテというのがあって、14地域のそれぞれの特徴というか、こういう魅力があります、文化的にはこうやとか、地理的にこうやとか、歴史こうやとか、こういう魅力がありますよという、そういうのを書いたものがありました。今はなくなってしまったんですけど、あれもう一回復活して、本当にあれ僕、住んでて、見つけたときにめっちゃうれしかったですよ。自分の住んでる地域以外の住之江区のほかの地域ってこんな面白いところやというのが分かってね、本当にいいところやなというのが分かったんで、あれをもう一回作りはったらいいと思う。まちセンに頼むのかとかって分かりませんが、それはそうなんですけど。

あとね、担い手の話なんですけど、僕もボランティアいろいろずっと長くやってて、いろんなボランティアの会に、大阪市とか大阪府のそういうボランティアやっているとところへ行って、そういう話出るんです。必ずどこ行っても担い手がいないと。若い人入ってこないんだみたいな話があって、気になってて、ずっといろんなそういうことを研究されてる学者さんとかがいて、それを最近はこの1年、2年、やっぱり発表されてるんです。どうしたらええかという。それでね、最近共通的に言われてるのがね、もう既に今ボランティアやってる人は本当に生きがいを感じてやってるわけで

す。そういった層が2割から3割ぐらいいるんですね。そして全然しない層が2割ぐらいいるんです。これはお金が必要なんで、働かないといけないから地域出ていかないと。あとの5割ぐらいの人がね、働いてもせんし、地域も行かないみたいな、こういう塊があるらしいんですよ。この人たちを動かすにはどうしたらいいのってということで、研究者が研究しているんで、なるほどと思ったんはね、有償ボランティアというのがちょっとお金もらえるという。これしたら入ってくるんです。塊が。5割全部が入ってくるんじゃないですけどね。そこから動き出す人がいる。ちょっと押してあげたら、きっかけが有償。そんなようけもらわんでもいい。ちょっとだけもらえたらいいみたいな。その有償ボランティアという制度が有効やというようなお話と、それが一つ。

もう一つね、今のボランティアの人たちというのは、僕も含めてですけど、定年が60とか65とかいう。地域に入っていくのも地域に出ていくのがそれぐらいの年代から入ってきたんですけど、今の方たちって、70歳まで働かないといけないから、なかなか地域に入ってこれない。さらにもう一つ言うと、就職氷河期世代がいて、ちょっと所得の低いというか、言い過ぎかも分かんけど。その人たちはやっぱり必死で働かないといけないんで、だから定年になってもまだ働かないといけない世代だろうと。だからその人たちをやっぱり地域で活動してもらおうと思ったら、やっぱりお金やということでね、その人たちをその地域に目を向けてもらうという意味でのライフデザイン研修というような名前と言うてはったんやけど。要は将来どうしていくんだ。どういうキャリア積んでいくんだとかいう、その就職氷河期世代の方にはどんなことを覚えて、技術持ってスキルアップしていったらいいか。どうやって、その結果、地域に問題がこんなんがあるから入っていきますよ、入ってくださいねみたいな思いを持っていってもらおうとか。シニアのところはね、もう既にシニアに達してる人は生きがいをどうやったら感じるかというような、そういう教育をするというね、そういう講習というか、そんなことを地域でやったらいいよというのは、そういうこと

を言われてたのはなるほどなと思って、ちょっと今日ご紹介したかったなというふうに思います。まちセンカフェのお話は絶対いいです。もうかなり地域というか、企業さんが盛り上がってるし。住民がついていけないんで、そこです。

○長谷部会長

本当に貴重なご意見いっぱいいただきまして、ありがとうございます。

もっともっといろんなご意見お伺いいたしたいところなんですけども、ちょっと時間があと6分ということで、最後に、皆さんの中で今日のご意見、お話等をまとめていただいて、一言、何か申し上げていただける方おられませんか。

○谷本委員

住之江区好きですよ。私はここで、堺にもともと住んでたんですけど、こっちで子育てして、すごいよかったと思います。住吉川小学校ってめっちゃいいです。

○長谷部会長

住之江区、住吉川、楽しんでいただいてありがとうございます。

茶谷さん。

○茶谷委員

すいません、発言が何か、私がまるで住之江区をディスってるように聞こえたと思うんですけど、決してそうではなくて、私も住之江区、本当に住んでよかったなって思ってまして、住之江公園なんて本当に最高で、四つ橋線だって最高な路線のところに住んでるので、本当にだからこそ担い手を増やすにはやっぱり若い世代に入ってきてもらうということが何よりやっぱり大事なことだし、それで魅力的なまちづくりをするということがやっぱり私たちの区政会議委員として来たからには、その課題あると思うので、ちょっと伝えさせていただきました。でも愛してますんで。お間違えないようにお願いします。

○長谷部会長

貴重なご意見、その意見ね、しっかり受けていただいて、住之江区さん、もっと

頑張っていたきたいなと。

副区長、最後に何か。

○玉置副区長

本当に皆様、いろんなご意見ありがとうございます。一つずつ、もうおっしゃっておられるとおりでなというふうにも思いますし。でも私も思いましたけど、ちょっと私もたまたま3月まで西区役所におりましたけど、ただ西区役所なり西区の取組が何かいいのかと言われたら、本当にでも住之江区のほうがすごくいいなという取組もいっぱいあるなというふうに思いました。NPO・企業連携して、学校関係者含めて連携して、年2回ではありますけどね、そうやって集う場があったりとかですか、・・・でもそこまでの頻度でできてるかって、正直できてないとかですね。特に基礎学力ということで、8小学校、4中学校で放課後学習塾というのをやっておりますけど、そこまでの頻度で、単位でやってるとかいうのもなかなか、どこの区でも当たり前のようにやってるかというところではないような状況もあります。なので、本当に今教えていただいたこととかご意見いただいたことっていうのは、ちゃんとまたこちら施策に生かしていきたいなというふうに思っております。

私も1か月半ですけど、すごく海と緑があって、住之江区いいまちだなというふうに思ってますので、本当によさをね、皆さんに思ってもらえるように頑張らないといけないなと思っております。本日どうも、本当にもうありがとうございました。

○長谷部会長

それでは、そろそろ予定の時間となりましたので、本日の会議を終わらせていただきます。

本日の会議内容につきましては、区政会議の全体会において、情報共有を図ることといたしております。今回の区政会議全体会議は、6月19日の木曜日、午後7時から開催予定としています。決定次第、事務局よりまたお知らせいたすことになろうかと思いますが、今日の議論内容を整理していただいて、全体会において報告できる、

資料の取りまとめを役所のほうとしてよろしくお願いいたします。

本日、予定していました議題は以上でございます。部会を終わらせていただきますが、最後に、これはもう蛇足なんですけど、今日ニュース見てたら、韓国と香港と台湾とシンガポール、毎日見てるんですけどね、新型コロナウイルスのまた猛威がかなり活発になってきたと。特にこの住之江区は、隣に今、大阪・関西万博開かれてる中で、人的交流が非常に大きい。特にニュートラム等を使って行かれる方とか、それと先ほどおっしゃってたように、万博に勤められてる方が南港のほうの住宅で、かなり大勢の方がおられるということで、本当にグローバルな形で人間関係が広がってきておりますのでね、このものの中でやっぱりまた、このくそ暑いときにマスクして行動しなきゃならないというようなことにならないように、皆さん、十分にお体に気をつけていただいて、今度の6月19日の全体会、どうぞよろしくお願いいたします。本当にありがとうございました。

それでは、取りまとめのほう、よろしくお願いいたします。

○井平課長

長谷部会長、ありがとうございました。

本日は長時間にわたり、ご議論いただきましてありがとうございます。いただいたご意見をしっかり受け止めまして、今年度以降、引き続き区政に反映していけるよう取り組んでまいります。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

本日の議論を踏まえまして、部会長より指示がございました全体会で報告する資料につきましては、今まで同様、事務局と部会長に一任いただいてもよろしいでしょうか。

(「はい」と言う者あり)

○井平課長

ありがとうございます。

それではこれで、住之江区区政会議、すこやか・まちづくり部会を閉会いたします

す。

また、6月19日に全体会予定ですので、よろしくお願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。

以下余白